

月明かりで見送った夜汽車（中学生の道徳3「自分をのばす」あかつき）

【一文読み】文化祭の飾り付けを進める中、国体に行くI先生の気持ち察して、学校の電気を全部消して夜行列車を見送るY先生をはじめとする先生たちのグッとくる話。

【内容項目】B-6（思いやり、感謝）

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

【この時間でおさえること】

思いやりの心は自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方であり、他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。その根底には、人間に対する深い理解と共感がなければならない。さらに、相手に重荷にならないようにする配慮は人間としての生きる喜びにつながる。

【中心発問】 みんなは、何に対して「オー」という声を上げ、拍手したのだろうか？

- ・ I先生を応援する意味で自然と声が出た。
- ・ I先生のことを思うY先生の行動に歓声が上がった。
（声だけでなく、拍手も起こっている。拍手の意味は？）
- ・ Y先生の気遣い（心遣い）が温かく、みんなも元気が出た。
- ・ 気遣い（心遣い）は分からないようにするのがいい。
（それは、どうして？）
- ・ 気遣い（心遣い）に気付いたら、負担に感じてしまう。
- ・ 相手に負担を感じさせないのが、思いやり。

※1時間で終わらないことぐらいI先生は知っている。気付かれてもいいと思う。やさしい気遣いのできる学校にいて良かったと思っている。

※野暮や嫌味ではなく、「粹」を教えたい。